

最高裁判所訪問記

9月9日(金)に本学の学生5名、関西大学の学生3名とともに最高裁判所を訪問しました。庁舎見学の後、最高裁判所判事・同調査官による講話とそれに基づく意見交換など充実した時間を過ごしました。



みなさんは、「最高裁判所」、「最高裁判所判事」にどのようなイメージを持っているでしょうか。私は、これまで、敷居の高い場所、近寄りたがたい人々という非常に漠然としたイメージを持っていました。しかし、今回、最高裁を訪問したことで、これらのイメージは正確ではなかったことに気付かされました。最高裁の建物、その中に設置されている大法廷、小法廷からは、華やかさや歴史の重みを感じ、講話をいただいた判事や調査官の方々からは、思考の深さや経験の豊富さ、さらには人としての強い魅力を感じました。そして、最高裁判所判事や

調査官の方々と実際にお会いしたことで、これまでに学んだ判例が無機質なだけではなく、どこか人間味のあるものに思えるようになりました。

今回の訪問で得た経験は、今後の学習を進める際に役立つだけでなく、将来法曹となった際にも必ず生きてくるはずです。今回の貴重な経験を忘れずに、社会に求められる法曹となるべく、これからも日々努力を続けていきたいと思っています。



高等司法研究科 2 年次生 宮本 浩河

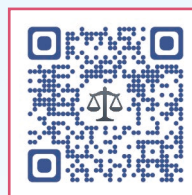
修学支援事業基金(高等司法研究科)へのご寄付のお願い

高等司法研究科には独自の給付型奨学金制度があります

高等司法研究科では、学生に対する独自の給付型奨学金を2021年度に1名に対して給付しました。2022年度も奨学金給付を予定しています。この奨学金は、経済的理由により修学が困難な本研究科の学生を支援するため、個人や企業・団体の皆様からのご寄付を基金として運営されています。この取組みを継続し、意欲ある学生を一人でも多く社会に送り出すため、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付の方法

クレジットカード・銀行振込・コンビニ払い
いずれもこちらからお手続きいただけます。



* 開いたページで **このプロジェクトに寄付をする** をクリックしていただくと、寄付目的と支援先がすでに入力されており、スムーズです。ご寄付の金額は自由に設定いただけます。



【お問い合わせ】

大阪大学大学院高等司法研究科
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-6
TEL : 06-6850-5973
HPアドレス <http://www.lawschool.osaka-u.ac.jp/>

【発行元】

大阪大学大学院高等司法研究科
発行:2022年11月1日



News Letter

【ニュースレター】

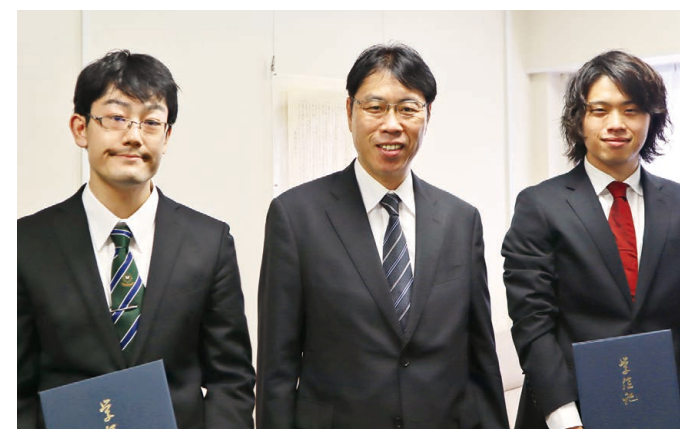
大阪大学大学院高等司法研究科
■ 法科大学院 ■

No. 24
2022



研究科長からのご挨拶

「法曹養成のための新たな試み」 高等司法研究科長 松本 和彦



高等司法研究科秋季修了式より

2004年4月の法科大学院制度開始と同時に高等司法研究科は創設され、それから18年あまりが経過しました。この間、本研究科は1200人ほどの修了生を社会に輩出しました。数年前までは法科大学院の先行きに対する不安感が強かったせいか、入学者が減少し、定員割れの憂き目を見ることもありました。しかしその後、入学者数は毎年増加し、今年は前年を遙かに上回る受験者数を記録するなど、「冬の時代」は脱したと感じています。本研究科が息を吹き返したことに、もちろん理由があります。元々、本研究科には、社会人や他学部出身者のための特別選抜の入試制度があり、多様な入学者を受け入れる仕組みがありました。2019年からは「グローバル法曹」枠を設けるなど、さらに間口を広げ、入学者の多様性確保を図っています。昨年度からは法曹コース出身の法学部生を対象にした特別選抜をスタートさせました。法曹コースについては、別欄での報告が予定されているため、ここでの説明は控えますが、こうした新しい試みを積み重ね、研究科の魅力を内外にアピールして、法科大学院制度と本研究科に対する信頼感を高めていったことが、今、評価されているのだと思います。本研究科で学んだ多様な学生が、卒業後、社会で活躍してくれることを大いに期待しています。

法曹コースと法科大学院

一昨年、大阪大学法学部に法曹コースが設置され、この4月に本研究科はその第1期生を迎え入れました。法曹コースは、裁判官・検察官・弁護士を目指して、法学部の初期の段階からアクセルを強く踏み法学の勉強をしたいという人のためのコースです。法学部1・2年次の春休みにコースへの登録申請をもらい、新学期からコースが始まります。定員は、2年次約30名、3年次約20名、4年次若干名です。

法曹コースの授業は、通常の法学部生に向けて開講されるものと同じですが、コースを修了するためには、多くの必修科目について良い成績で単位を修得する必要があります(詳しくは大阪大学法学部ウェブサイト参照)。法曹コースを修了すると、法律科目の論述試験を課さない特別選抜(法曹

コース5年一貫型)の入試を経て、法学既修者として本研究科に進学することができます。

さらに、早期卒業制度を併用することで、大学入学から5年間で司法試験に合格することが可能になります。しかも、令和5年度からは、法科大学院の最終学年に在学中に司法試験を受験することができるようになるため、大学入学から最短で6年後には法曹資格を得ることができます。

法学部で開講されている多くの授業の中から、法曹になるためにどの授業をどの順序で履修すればよいのか、どのような成績を修める必要があるのかについて羅針盤がほしいという法学部生、早く法曹になりたいという法学部生にとって、法曹コースは有力な選択肢です。

アドミッション委員会委員長 松井 和彦

司法試験特集

2022年の司法試験の結果について

2022年の司法試験において、本研究科の修了生は111名が受験し、短答式試験の合格者が95名(受験者の85.6%)、最終合格者が51名(受験者の45.9%)となりました。なお司法試験全体では、受験者数3082人に対して短答式試験合格者が2494名(受験者の80.9%)、最終合格者が1403名(受験者の45.5%)でした。法科大学院出身者では、受験者数2677人に対して短答式試験合格者が2090名(受験者の78.1%)、最終合格者が1008名(受験者の37.7%)でした。本研究科修了生の成績は、全国平均を上回っています。

また昨年と比較すると、本研究科の今年の結果は、合格者数(昨年47名)、合格率(昨年40.9%)ともに、昨年を上回っています。また、直近年度修了者の合格率は61.7%(60名中37名)と、3年連続で50%を超えました。

合格率の推移についてですが、2017年以降は40%前後で推移していたところ、今年は約46%と一歩踏み出たように思われます。上昇傾向にあるといってよいかは分かりませんが、もう少し高いレベルを実現したいところです。

また、昨年低迷した法学未修者の合格率ですが、今年は23.1%(39名中9名)と、昨年(15%)を上回るとともに、全国平均(21.4%)も上回りました。ただ「未修に強い阪大」としては、さらなる合格率の増加を目指したいところです。

修了後1年目の修了生における学内成績と合否の相関は、かなり顕著に現れました。本研究科における日頃の学修が結果につながると考えておきましょう。

最後に、合格者51名中49名が1回目・2回目の受験者でした。3回目以上の修了生に対するフォロー体制も検討する必要がありそうです。

副研究科長 久保 大作

司法試験合格者体験談

「再受験で意識したこと」



2021年3月 法学未修者コース修了

藤原 くるみ

私は2回目の受験で合格しました。1回目の受験は不合格だったので、先生方にアドバイスを頂いて、泣きながら敗因分析をしました。分析結果を踏まえ、2回目の受験にあたって意識したことは以下の5つです。

①学説や判例を常に疑い、自分の頭で考える。

司法試験は複雑な問題が多く、学説や判例を参考にできないものもあります。そのため、学説や判例の弱点を補完する自説を考えたりしていました。

②原則から書く。

たとえば伝聞証拠であることを書かず、いきなり伝聞例外の検討をするなど、原則を飛ばす癖がありました。この癖を直すためにふせんに「原則から書く」と書いて勉強机に貼っていました。

③典型論点は簡潔に、難しい論点や初見の論点は丁寧に書く。

典型論点は、よく勉強しているため、長々と書いてしまいがちです。しかし、それはライバルも同じなので、論証は簡潔にまとめ、当てはめで勝負すべきだと考えました。逆に、難しい論点や初見の論点は、ライバルも困惑するはずで、この場合は、自分なりの論述を丁寧に展開して、問いに答える姿勢を見せるようにしていました。

④一文は短く。

一文が長いと、文章の意味が的確に伝わりにくいです。

⑤字は大きく。

急いで字が乱れても読みやすいように、大きい字を書くようにしました。

受験において大事なものは、どの教材を使用するかということよりも、上記のような意識をもつことです。使用する基本書や問題集は、定評のあるものなら何でもよいと思います。最後まで諦めずに頑張ってください。



合格者の声

Real Voice



「ロースクール生活と司法試験受験」



2022年3月 法学未修者コース修了

北中 桜子

私は未修コースで入学し、ロースクールで3年間学びました。学部時代は4年生になるまで法曹を志していなかったため、ロースクールに入学するまでは、司法試験の勉強をしている友人もおらず、どのように司法試験合格を目指せばよいかわからない状態でした。そんな私が司法試験に合格することができたのは、ロースクールに入学し周りの人間関係に恵まれ、友人や先生方のサポートを受けることができたからだと考えています。

学習面ではとにかく授業をまじめに聞き、復習するように努めました。その結果、3年間で司法試験過去問などを除けば、ロースクールで学習した内容だけで十分な学習をすることができました。

また、司法試験までは知識面の問題も勿論ありますが、どちらかといえば緊張感やプレッシャーなど精神的ストレスが大きいことが私にとっては大きな問題でした。勉強以外の内容を相談することができる友人が周囲にいたことは精神的に大きな支えになりました。

勉強の内容は授業を重視し復習していましたが、勉強の仕方については試行錯誤し、自分の勉強方法を確立するのにとても苦労したこともあって、ロースクール生活の修了間際まで大変悩みました。しかし、周囲の人々の助けがあり、自分を信じて受験し、合格できたことに感謝しています。これから勉強を始められる方々にはロースクールに入学した最初から、しっかりと計画を立て、自分に合った勉強方法を見つけてほしいと思います。

「自分を客観視する」



2022年3月 法学既修者コース修了

野田 研人

私が司法試験合格に向けて最も大切にしたことは、常に自分を客観視することです。司法試験は、8科目の法律科目をバランスよく理解出来ているかを確かめる試験です。合格を掴み取るには、自分の弱点とする科目・分野を客観的に把握し、それらを改善していく必要があります。

阪大ローには、親身になって質問に対応して下さる先生方や、疑問点を議論し、切磋琢磨できる同級生がいます。恵まれた環境の中で、自分の実力を客観視し、弱点を把握する機会が数多く用意されています。私は、授業の予復習や発言、定期試験の成績、学内での順位等を通じて現状を多方向から分析し、「何を・どのくらい・どのような方法で勉強する必要があるか」を考えながら学習計画を立てていました。このようなプロセスを繰り返すことが、合格への鍵になったと思います。

また、自分を客観視することは、精神面の安定にもつながると思います。ロースクール入学後、司法試験受験まで2年以上にわたり勉強を継続するには、心身の健康の確保が必須です。進むべき方向が分からないまま闇雲に勉強していても、焦りや不安といった負の感情に押し潰されてしまいます。巷では、奇抜な勉強法が脚光を浴びやすいですが、惑わされないでください。基本に忠実に、阪大ローの質の高い授業をしっかりと自分のものにすれば、着実にステップアップできるはずで、これから司法試験合格を目指す皆さんには、ぜひ自己分析を大切にしてください。

修了生との連携「OULS修了生が語る ただいま法曹中！」

OULS
修了生が語る
ただいま
法曹中!

高等司法研究科公式 YouTubeチャンネル

高等司法研究科では、昨年末から、修了生と連携して、有益な法情報を社会に発信し、それを社会の中で共有しようという企画を開始しています。題して「OULS修了生が語る ただいま法曹中!」。ダジャレ含みのタイトルですが、中身はいたって真面目です。普段は離れたところで活躍する修了生同士がオンライン上で集い、一つのテーマをめぐって、縦横に語ってくれています。そこで交わされた議論を録画・編集し、本研究科のウェブサイト上に掲載して、YouTube動画の形で配信しています。

第1回動画のテーマは「法教育」でした。そこでは、実際に法教育(法律専門家ではない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身につけるための教育)に携わっている3人の弁護士(飯田亮真氏、夏目麻央氏、内藤有啓氏)が、自らの実践を踏まえつつ、法教育に関心を抱く人たちに

向けて、法教育の意義と課題を熱く語っています。特に、法律家と教師という2つの視点からの議論は参考になります。

第2回動画は「グローバル法曹」をテーマに、OECD日本政府代表部に籍を置く高城潤氏と国際法務を手がける弁護士の平野悠之介氏が、グローバルな法領域で活躍する法曹を念頭に置き、パリと大阪でインターネットを介して対談してくれました。自らがグローバル法曹として活動する2人が、現在と未来の法曹の職域を関連づけ、国際社会における今後の法曹のあり方を展望する様は見応え十分です。

第3回動画は現時点での最新版です。テーマは「弁護士夫婦」でした。修了生同士で結婚し、ともに弁護士として活動している2組の夫婦(中島夫妻と松岡夫妻)に登場いただき、後輩夫婦が先輩夫婦にインタビューするという形式で対論してもらいました。弁護士夫婦ならではのエピソードの数々は、修了生同士の夫婦が案外多いことから

推して、法曹志望者のライフプランにも寄与するところが大きいでしょう。

高等司法研究科は、これからも修了生の皆さんとともに、研究科の内外に向けて、有益な法情報を発信していきます。第4弾、第5弾の動画企画も、今後、できるだけ間を置かず、打ち出していきたいと思っています。修了生の皆さんのご協力を期待しています。なお、本研究科に勧めたい企画立案がございましたら、ぜひお知らせいただけますようお願い申し上げます。



第3回「弁護士夫婦」のひとコマ